

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-250373

(43)Date of publication of application : 09.09.2003

(51)Int.Cl. A01K 1/03
A01K 29/00

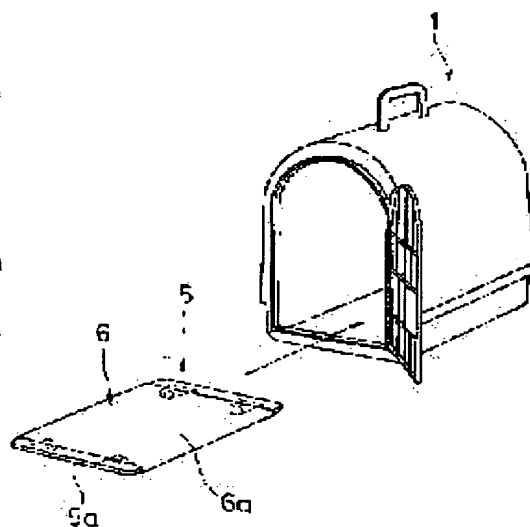
(21)Application number : 2002-048843 (71)Applicant : IRIS OHYAMA INC

(22)Date of filing : 25.02.2002 (72)Inventor : IWAMA AKIHIKO

(54) CASE FOR PET, MECHANISM FOR FIXING RUG AND SHEET IN PET CASE**(57)Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a case for a pet that can be made in a compact form, when it is stored and permits the pet easily to go in and come out of the case, when the case is used, and to provide a rug for the pet case and a pet sheet- fixing mechanism that has a simple structure and can readily fix the rug and the pet sheet whereby the convenience of the pet case is increased.

SOLUTION: In the container 2 for receiving and storing a pet of the pet case 1, the side face 2b includes four faces of the front, the rear, the left and the right and the detachable attachment member 4 is made fixable to the faces of the front, the right, the left and the rear each other respectively. The fixing mechanism for fixing the rug 5 and the pet sheet 6 fixes the pet sheet between the ball side (5b1, 12a) arranged on the bearing face (5a1, 14) and the ball side (5b2, 12a) of the snap (5b, 12b) that can be fitted to the ball side (5b2, 12a) and the socket side 12b.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination] 01.02.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開 2003-250373

(P 2003-250373A)

(43) 公開日 平成15年9月9日 (2003. 9. 9)

(51) Int. Cl. ⁷

A01K 1/03
29/00

識別記号

F I

A01K 1/03
29/00

テーマコード(参考)

B 2B101

審査請求 未請求 請求項の数 18 O L

(全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2002-48843 (P2002-48843)

(22) 出願日 平成14年2月25日 (2002. 2. 25)

(71) 出願人 391001457

アイリスオーヤマ株式会社

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

(72) 発明者 岩間 亮彦

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

アイリスオーヤマ株式会社内

(74) 代理人 100081318

弁理士 羽切 正治 (外1名)

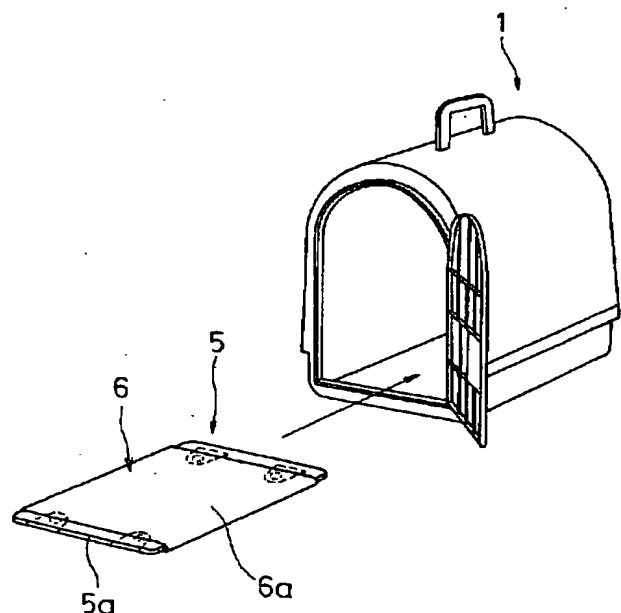
F ターム(参考) 2B101 AA13 AA20 FB01 FB04 GB01

(54) 【発明の名称】 ペット用ケース及びペット用ケース用中敷き並びにペットシーツの固定機構

(57) 【要約】

【課題】 収納時においてコンパクトに収納可能であり、使用時においてはペットの出し入れが容易に達成可能なペット用ケース、ペットシーツを簡単な構造で容易に固定可能なペット用ケース用中敷き並びにペットシーツの固定機構を提供することによってペット用ケースの利便性を向上させること。

【解決手段】 ペット用ケース1の収容体2は、側面2bが前後及び左右の4つの面を含み、着脱部材4は、前面と左右の面及び後面と左右の面とを互いに固定可能である。ペット用ケース用中敷き5及びペットシーツ6の固定機構は、座面(5a1、14)に配されたボールサイド(5b1、12a)と、ボールサイド(5b2、12a)に嵌合し得るソケットサイド12bからなるスナップ(5b、12b)のボールサイド(5b2、12a)とソケットサイド12bの間にペットシーツ6を挟持して固定する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する収容体と、前記側面同士を互いに着脱可能な着脱部材とを有するペット用ケースにおいて、

前記収容体は、前記側面が前後及び左右の 4 つの面を含み、前記着脱部材は、前記前面と前記左右の面及び前記後面と前記左右の面とを互いに固定可能であることを特徴とするペット用ケース。

【請求項 2】 少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する収容体と、前記側面同士を互いに着脱可能な着脱部材と、前記収容体を車両の座席上に固定する固定部材とを有するペット用ケースにおいて、

前記収容体は、前記側面が前後及び左右の 4 つの面を含み、前記着脱部材は、前記前面と前記左右の面及び前記後面と前記左右の面とを互いに固定可能であることを特徴とするペット用ケース。

【請求項 3】 前記着脱部材は、ファスナであって、すべり金具を前記底面側（X' 方向）にスライドさせることにより、前記側面同士の固定を解除することが可能であることを特徴とする請求項 1 記載又は請求項 2 のペット用ケース。

【請求項 4】 対向する一組の底面両側部に接続する側面と底面間の連結部の幅（L1）は、少なくとも底面に敷設される中敷きの厚さ（A）よりも大であり、対向する他の一組の底面両側部に接続する側面と底面間の連結部の幅（L2）は、前記中敷きの厚さ（A）及び前記側面の厚さ（B）の和（A+B）よりも大であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のうちいずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 5】 対向する一組の側面の高さ（H）の和（H+H）は、前記側面の連結される前記底面の対向する一組の両端部間の距離（Y）と等しい、又は、小であることを特徴とする請求項 4 記載のペット用ケース。

【請求項 6】 少なくとも底面及び側面を有し、ペットを内部に収容可能な収容体からなるペット用ケースにおいて、

吸収体部分と、吸収体部分の周囲に設けられた周辺部分とを有するペットシートと、

前記底面上に敷設される中敷きとを有し、前記中敷きは、前記ペットが座る座面を有してマット状で形成され、ボールサイドとソケットサイドとからなるスナップを複数備え、前記中敷きの座面とペットの間に介挿されて使用される前記ペットシートが、前記中敷きの座面を被覆して前記周辺部分をボールサイドとソケットサイドとで挟持して固定することを特徴とするペット用ケース。

【請求項 7】 ペットを内部に収容可能なペット用ケースに使用される中敷きにおいて、

前記中敷きは、前記ペットが座る座面を有してマット状で形成され、

前記中敷きの座面とペットの間に介挿されて使用されるペットシートを有し、前記ペットシートは、

吸収体部分と、吸収体部分の周囲に設けられた周辺部分とからなり、

ボールサイドとソケットサイドとからなるスナップを複数備え、前記ペットシートの周辺部分を複数のボールサイドとソケットサイドとからなるスナップで挟持して前記中敷き座面を被覆し、固定することを特徴とするペット用ケース用中敷き。

【請求項 8】 前記スナップは、前記中敷き本体の端部に配されたことを特徴とする請求項 6 又は請求項 7 記載のペット用ケース用中敷き。

【請求項 9】 前記ソケットサイド（又はボールサイド）は、前記中敷き本体に配された前記ボールサイド（又はソケットサイド）の近傍にて少なくとも一端を前記中敷き本体に固定された支持部に配されたことを特徴とする請求項 6 乃至請求項 8 のうちいずれか 1 に記載のペット用ケース用中敷き。

【請求項 10】 前記スナップは、縫製によって前記中敷き本体と前記ボールサイド（又はソケットサイド）、前記支持部と前記ソケットサイド（又はボールサイド）を固定することを特徴とする請求項 9 記載のペット用ケース用中敷き。

【請求項 11】 前記ペットシートは、前記中敷きの座面を被覆して、該端部を前記中敷きの下面側に折り返して前記中敷き本体の下面側に設けられた前記スナップにより挟持して固定されることを特徴とする請求項 6 乃至請求項 10 のうちいずれか 1 に記載のペット用ケース用中敷き。

【請求項 12】 前記中敷き本体は、柔軟性素材によって構成されることを特徴とする請求項 6 乃至請求項 11 記載のうちいずれか 1 に記載のペット用ケース用中敷き。

【請求項 13】 前記中敷き本体は、中空の袋状をなし、内部に芯部を収納可能であることを特徴とする請求項 6 乃至請求項 12 のうちいずれか 1 に記載のペット用ケース用中敷き。

【請求項 14】 少なくとも座面を有する空間に敷設されるペットシートの固定機構において、前記座面に配された凸型のボールサイド（又は座面に設けられた凹型のソケットサイド）と、該ボールサイド（又は該ソケットサイド）に嵌合し得る凹型のソケットサイド（又は凸型のボールサイド）からなるスナップの前記ボールサイドの凸部と前記ソケットサイドの凹部の間にペットシートを挟持して固定することを特徴とするペットシートの固定機構。

【請求項 15】 前記ペットシートは、吸収体部分と、吸収体部分の周囲に設けられた周辺部分とを有し、前記

ペットシーツの周辺部分を前記スナップで挟持することを特徴とする請求項 14 記載のペットシーツの固定機構。

【請求項 16】 前記ボールサイドの凸部は、先端方向に拡開し、該ボールサイドと嵌合可能な前記ソケットサイドは凹型であり、凹部の開口側の幅は底面側の幅よりも漸次小であることを特徴とする請求項 14 又は請求項 15 記載のペットシーツの固定機構。

【請求項 17】 前記ボールサイドは、前記座面に一体成形されたことを特徴とする請求項 14 乃至請求項 16 のうちいずれか 1 に記載のペットシーツの固定機構。

【請求項 18】 前記ボールサイドは、粘着性部材で前記座面に固定されたことを特徴とする請求項 14 乃至請求項 16 のうちいずれか 1 に記載のペットシーツの固定機構。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、犬や猫等のペットを収容可能なペット用ケース及びペット用ケース用中敷き並びにペットシーツの固定機構に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、屋内において、犬や猫等のペットを一時、所定の位置に係留する場合や、ペットを列車、自動車などの車両に乗せる場合には、汚損防止用かつ逃走防止用のペット用ケースを使用して、このペット用ケース内にペットを収納することが日常的に行われている。また、ペット用ケース自体の汚損防止、かつ、ペットの居住性の向上を図るべく、ペット用ケースの底面（座面）にペットシーツを敷設することが一般的に行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、ペット用ケースは、筐体型をなすため、場所をとるものであって、利便性に問題があり、収納時においては、折り畳みが可能であって、コンパクトに収納可能であることが好ましい。また、自動車内において、ペット用ケースを固定して使用した場合においては、ペット用ケース内へのペットの収納、ペット用ケース外へのペットの取り出しが困難であり、ペットの出し入れに手間取るとペットがペット用ケースを嫌悪してしまうおそれもある。さらに、ペット用ケース等に敷設されるペットシーツの固定機構としては、実用新案登録第 3040043 号等の如く種々提案されているが、非常に複雑な構成を採り、コストも高く、シーツの交換、取り付けも面倒である。

【0004】本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであって、収納時においてコンパクトに収納可能であり、使用時においてはペットの出し入れが容易に達成可能なペット用ケース、ペットシーツを簡単な構造で容易に固定可能なペット用ケース用中敷き並びにペットシーツの固定機構を提供することによってペット用ケースの

利便性を向上させることを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明によるペット用ケースは、少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する収容体と、前記側面同士を互いに着脱可能な着脱部材とを有するペット用ケースにおいて、前記収容体は、前記側面が前後及び左右の 4 つの面を含み、前記着脱部材は、前記前面と前記左右の面及び前記後面と前記左右の面とを互いに固定可能であることを特徴とする。

【0006】また、本発明によるペット用ケースは、少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する収容体と、前記側面同士を互いに着脱可能な着脱部材と、前記収容体を車両の座席上に固定する固定部材とを有するペット用ケースにおいて、前記収容体は、前記側面が前後及び左右の 4 つの面を含み、前記着脱部材は、前記前面と前記左右の面及び前記後面と前記左右の面とを互いに固定可能であることを特徴とする。

【0007】また、本発明によるペット用ケースの着脱部材は、ファスナであって、すべり金具を前記底面側（X' 方向）にスライドさせることにより、前記側面同士の固定を解除することが可能であることを特徴とする。

【0008】また、本発明によるペットケースの対向する一組の底面両側部に接続する側面と底面間の連結部の幅（L1）は、少なくとも底面上に敷設される中敷きの厚さ（A）よりも大であり、対向する他の一組の底面両側部に接続する側面と底面間の連結部の幅（L2）は、前記中敷きの厚さ（A）及び前記側面の厚さ（B）の和（A+B）よりも大であることを特徴とする。

【0009】また、本発明によるペットケースの対向する一組の側面の高さ（H）の和（H+H）は、前記側面の連結される前記底面の対向する一組の両端部間の距離（Y）と等しい、又は、小であることを特徴とする。

【0010】また、本発明によるペット用ケース用中敷きは、少なくとも底面及び側面を有し、ペットを内部に収容可能な収容体からなるペット用ケースにおいて、吸収体部分と、吸収体部分の周囲に設けられた周辺部分とを有するペットシーツと、前記底面上に敷設される中敷きとを有し、前記中敷きは、前記ペットが座る座面を有してマット状で形成され、ボールサイドとソケットサイドとからなるスナップを複数備え、前記中敷きの座面とペットの間に介挿されて使用される前記ペットシーツが、前記中敷きの座面を被覆して前記周辺部分をボールサイドとソケットサイドとで挟持して固定することを特徴とする。

【0011】また、本発明によるペット用ケース用中敷きは、ペットを内部に収容可能なペット用ケースに使用される中敷きにおいて、前記中敷きは、前記ペットが座

る座面を有してマット状で形成され、前記中敷きの座面とペットの間に介挿されて使用されるペットシートを有し、前記ペットシートは、吸収体部分と、吸収体部分の周囲に設けられた周辺部分とからなり、ボールサイドとソケットサイドとからなるスナップを複数備え、前記ペットシートの周辺部分を複数のボールサイドとソケットサイドとからなるスナップで挾持して前記中敷き座面を被覆し、固定することを特徴とする。

【0012】また、本発明によるペット用ケース用中敷きのスナップは、前記中敷き本体の端部に配されたことを特徴とする。

【0013】また、本発明によるペット用ケース用中敷きのソケットサイド（又はボールサイド）は、前記中敷き本体に配された前記ボールサイド（又はソケットサイド）の近傍にて少なくとも一端を前記中敷き本体に固定された支持部に配されたことを特徴とする。

【0014】また、本発明によるペット用ケース用中敷きのスナップは、縫製によって前記中敷き本体と前記ボールサイド（又はソケットサイド）、前記支持部と前記ソケットサイド（又はボールサイド）を固定することを

特徴とする。

【0015】また、本発明によるペット用ケース用中敷きのペットシートは、前記中敷きの座面を被覆して、該端部を前記中敷きの下面側に折り返して前記中敷き本体の下面側に設けられた前記スナップにより挾持して固定されることを特徴とする。

【0016】また、本発明によるペット用ケース用中敷きの中敷き本体は、柔軟性素材によって構成されることを特徴とする。

【0017】また、本発明によるペット用ケース用中敷きの中敷き本体は、中空の包袋状をなし、内部に芯部を収納可能であることを特徴とする。

【0018】また、本発明によるペットシートの固定機構は、少なくとも座面を有する空間に敷設されるペットシートの固定機構において、前記座面に配された凸型のボールサイド（又は座面に設けられた凹型のソケットサイド）と、該ボールサイド（又は該ソケットサイド）に嵌合し得る凹型のソケットサイド（又は凸型のボールサイド）からなるスナップの前記ボールサイドの凸部と前記ソケットサイドの凹部の間にペットシートを挾持して

固定することを特徴とする。

【0019】また、本発明によるペットシートの固定機構のペットシートは、吸収体部分と、吸収体部分の周囲に設けられた周辺部分とを有し、前記ペットシートの周辺部分を前記スナップで挾持することを特徴とする。

【0020】また、本発明によるペットシートの固定機構のボールサイドの凸部は、先端方向に拡開し、該ボールサイドと嵌合可能な前記ソケットサイドは凹型であり、凹部の開口側の幅は底面側の幅よりも漸次小であることを特徴とする。

【0021】また、本発明によるペットシートの固定機構のボールサイドは、前記座面に一体成形されたことを特徴とする。

【0022】また、本発明によるペットシートの固定機構のボールサイドは、粘着性部材で前記座面に固定されたことを特徴とする。

【0023】次に本発明によるペット用ケースの実施形態について、図1乃至図9を参照して説明する。

【0024】図1は、本発明によるペット用ケースを展開した状態を示す平面図、図2（a）及び（d）は、本発明によるペット用ケースを組み立てる工程を示すものであり、（a）は、正面図、（b）は、平面図、（c）及び（d）は、斜視図である。図3（a）乃至（d）は、本発明によるペット用ケースを分解して、折り畳む工程を示すものであり、（a）乃至（c）は、平面図、（d）は、右側面図である。図4は、本発明によるペット用ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図であり、枠線内は着脱部材（ファスナ）の部分拡大図である。図5は、本発明によるペット用ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図であり、枠線内は固定状態を示す部分拡大図である。図6は、本発明によるペット用ケース内にペットを係留した状態を示す平面図、図7は、本発明によるペット用ケースの使用形態を示す斜視図、図8は、本発明によるペット用ケースにペットを出入りさせる場合の状態を示す斜視図、図9は、本発明によるペット用ケースを縦方向に座席上に固定した状態を示す斜視図である。

【0025】図1乃至図9に示すように、ペット用ケース1は、上面が開口した箱状に形成されて犬や猫等のペットを收容する收容体2と、收容体2を構成する側面2b同士を互いに着脱可能な着脱部材4を有する。しかし、このペット用ケース1は、用途に応じて、收容体2を自動車等の車両の座席10（図4参照）上に固定する固定部材3（図2（c）及び図4参照）や、收容体2内に設けられて前記ペットを收容体2内に係留する係留部材7（図6）を用いることもできる。尚、ペット用ケースの符号1は、本発明によるペット用ケースの総称を表すものとして使用しており、前述した、收容体2、着脱部材4、固定部材3、係留部材7を含む概念である。

【0026】図2及び図4に示すように、收容体2は、底面2a、各側面2b（2b1乃至2b4）は、夫々図4に示すように、基材2iと、基材2iを被覆する被覆部材2gと、基材2iと被覆部材2gとの間に設けられた弾性部材2hと、被覆部材2gの周縁に設けられて側面2b同士を互いに固定する着脱部材4を有する。したがって、收容体2は、底面2aと各側面2bの夫々が基材2iを有し、かつ、それらが、被覆部材2gで全体が被覆されて、連結されているので、境界部で折り曲げ可能となっており、展開及び組立が自在に可能である。

【0027】また、收容体2は、図1に示すように、底

面 2 a 及び前後左右の 4 つの面からなる側面 2 b によって構成されている。即ち、収容体 2 は、長方形の底面 2 a と、底面 2 a の長手方向に隣接し、被覆部材によって連結されている側面 2 b 1 と、側面 2 b 1 に対向し、かつ底面 2 a の長手方向に隣接し、被覆部材によって連結されている側面 2 b 2 と、底面 2 a の短手方向に隣接し、被覆部材によって連結されている側面 2 b 3 と、側面 2 b 3 に対向し、かつ底面 2 a の短手方向に隣接し、被覆部材によって連結されている側面 2 b 4 とからなる。

【0028】また、弾性部材 2 h は、ポリウレタン樹脂等からなり、基材 2 i と被覆部材 2 g との間に介装され、外部からの衝撃を吸収可能であって、本実施の形態では、弾性部材 2 h は、基材 2 i を挟んで両面に介装されている。

【0029】図 4 に示すように、基材 2 i は、収容体 2 全体の剛性を向上して、組み立てた状態の収容体 2 の形状を保持するものであり、底面 2 a 及び側面 2 b に対応した形状に形成され、各々の面は、被覆部材 2 g により基材 2 i を包み込んで縫製されている。なお、基材 2 i は、所定の剛性を有するものであれば、合成樹脂、紙材、木材及び金属等の種々の素材を適宜選択可能であるが、合成樹脂は軽量で強度が大きく、しかもペットが収容体 2 を噛んだ場合でも悪影響を与える恐れがないことから、基材 2 i の素材として好適である。

【0030】被覆部材 2 g は、基材 2 i を被覆して底面 2 a 及び側面 2 b を連結部で折り曲げ可能に形成し、収容体 2 を組立及び展開自在に構成するものであり、織布、不織布、紙材、合成樹脂、合成繊維等の素材を適宜選択して使用することができる。本実施の形態では、被覆部材 2 g が綿製の織布から形成され通気性が確保されており、美的にも優れた外観を有する。

【0031】また、着脱部材 4 は、本実施の形態ではファスナを用いており、各側面 2 b の両側部に各々一組ずつ設けられ、側面 2 b 同士を自在に着脱可能である。したがって、着脱部材（ファスナ）4 を矢印 X' 方向（図 2（d）及び図 4 参照）に引き下げれば、側面 2 b 同士を互いに解放して収容体 2 を容易に折り畳み可能である。

【0032】また、ペット用ケース 1 の収容体 2 の底面 2 a 上には、ペットが座る座面を有し、底面 2 a の形状に合わせて形成されたマット上の中敷き 5 が敷設され、収容体 2 自体の汚損が防止される。図 1 に示すように、収容体 2 の底面 2 a と各側面 2 b の間には、底面 2 a 及び各側面 2 b と同様に被覆部材 2 g で被覆されてなる連結部 2 f が設けられている。連結部 2 f は、収容体 2 の底面 2 a の対向する一組の両側部に接続する側面（2 b 1、2 b 2）と底面 2 a 間の第 1 連結部、収容体 2 の底面 2 a の対向する他の一組の底面 2 a 両側部に接続する側面（2 b 3、2 b 4）と底面 2 a 間の第 2 連結部を有

する。また、図 3（a）に示すような、中敷き 5 の厚さ、即ち、紙面に対して垂直方向の厚さを（A）、側面（2 b 1、2 b 2）の厚さを（B）とする。第 1 連結部 2 f 1 の横幅（L 1）は、少なくとも前記中敷きの厚さ（A）よりも大で構成される。また、第 2 連結部の幅（L 2）は、前記中敷き 5 の厚さ（A）及び前記側面の厚さ（B）の和（A+B）よりも大で構成される。

【0033】さらに、底面 2 a を挟んで対向する一組の側面（2 b 1、2 b 2）の各高さ（H）の和（H+H）は、前記側面（2 b 1、2 b 2）の連結される前記底面 2 a の対向する一組の両端部間の距離（Y）と等しいか、または、小で構成される。

【0034】従って、連結部 2 f の存在及び側面（2 b 1、2 b 2）の高さの和（H+H）が底面 2 a の両端部間の距離（Y）と等しいか、小で構成されることによって、ペット用ケース 1 の収納時においてもコンパクトに折り畳むことが可能となる。即ち、着脱部材 4 の解除により、展開された収容体 2 を折り畳むことが可能であるが、図 3 に示すように、以下のような工程となる。第 1. に、図 3（a）に示すように、展開された収容体 2 の底面 2 a 上に中敷き 5 を載置する。また、この場合においては、底面 2 a 上に載置した中敷き 5 を後述する係留部材 7 を援用し、底面 2 a 上に固定可能である。第 2. に、図 3（b）に示すように、側面 2 b 1 及び側面 2 b 2 を底面 2 a 上方側に折り畳む。この場合において、中敷き 5 の厚さ（A）よりも側面（2 b 1、2 b 2）と底面 2 a を連結する第 1 連結部 2 f 1 の幅（L 1）が大で構成されるため、中敷き 5 の厚さ（A）に第 1 連結部 2 f 1 の幅（L 1）が対応し、連結部 2 f 1 が、まちとなることによって、両側面（2 b 1、2 b 2）を中敷き 5 を底面 2 a 上に載置した状態においてもコンパクトに折り畳むことが可能である。また、側面（2 b 1、2 b 2）の高さの和（H+H）が底面 2 a の両端部間の距離（Y）と等しいか、小で構成されるため、側面（2 b 1、2 b 2）同士が重ならないため、折り畳み時における収容体 2 の厚さを抑えることが可能である。第 3 に、図 3（c）に示すように、側面 2 b 3、側面 2 b 4 の順に、側面 2 b 1 及び側面 2 b 2 が折り重なった底面 2 a 上に折り畳む。この場合において、中敷き 5 の厚さ（A）及びすでに底面 2 a 上に折り畳まれた側面（2 b 1、2 b 2）の厚さ（B）の和（A+B）よりも側面（2 b 3、2 b 4）と底面 2 a を連結する連結部 2 f 2 の幅（L 2）が大で構成されるため、中敷き 5 の厚さ（A）及び側面（2 b 1、2 b 2）の厚さ（B）の和（A+B）に第 2 連結部 2 f 2 の幅（L 2）が対応し、第 2 連結部 2 f 2 が、まちとなることによって、両側面（2 b 3、2 b 4）を中敷き 5 及び側面（2 b 1、2 b 2）を底面 2 a 上に載置した状態においてもコンパクトに折り畳むことが可能である。したがって、収容体 2 全体の厚さを抑えてコンパクトに収納可能となる。

【0035】図2、図3(a)及び図6に示すように、係留部材7は、犬や猫等のペットを収容体2内に係留する部材であり、収容体2の内側に固定された環状部材7cと、該環状部材7cが連結される連結部材7b1を有する带状部材7aと、带状部材7aの先端部に設けられてペットに対して連結される連結部材7b2とを有する。連結部材7bは、開閉自在な環状の部材からなり、例えばペットの首輪等に設けられたリング部材(図示せず)に対して連結可能である。また、带状部材7aは、

所定の範囲で長さを調整可能である。これにより、ペットが収容体2の外側に飛び出すことがない。また、車両が急停車した場合でもペットが前方に投げ出されることを防止することができる。

【0036】図2(c)及び図5に示すように、固定部材3は、収容体2の外側、この場合側面2b4(後面)の外側面上部に互いに離間して設けられた一対の環状部材3bと、環状部材3b同士の間で連結されて座席10の頭部50c(図7参照)に掛け回されるベルト部材3aを有する。

【0037】ベルト部材3aは、両端に結合部材3cを有し、この結合部材3cを介して、それぞれ環状部材3aに連結されている。結合部材3cは、開閉自在な環状の部材からなり、ベルト部材3aは、環状部材3bに対して着脱自在である。また、ベルト部材3aは、所定の範囲で長さを調整可能であり、ベルト部材3aを座席10(図5参照)に掛け回して緊張させれば、収容体2を座席50に対して密着固定することができる。

【0038】なお、本実施の形態では、固定部材3にベルト部材を一本設けているが、ベルト部材は複数設けてもよく、適宜増減が可能である。また、ベルト部材3aを掛け回す座席10(図5参照)の部位についても、適宜変更可能である。

【0039】また、収容体の側面2b4の外側中央には縦長帯状の固定部材8が設けられている。固定部材8は、被覆部材2gと同一の素材からなり、車両の座席10(図5参照)が有するシートベルト51を使用して座席10上に固定するものであり、収容体2の側面2b4上に設けられ、シートベルト11を挿通する開口部8aを有する。固定部材8の長手方向両端部及び長手方向略中央部は、側面2b4外側に縫製されて固定されており、固定部材8の長手方向両端部及び長手方向略中央部の縫製された個所の間に開口部8aが2個所設けられている。したがって、図5に示すように、シートベルト11を開口部8aに挿通して固定すれば、座席10上にペット用ケース1を密着固定することが可能であり、しかも座席10が有するシートベルト11を利用可能であることから、ペット用ケース1全体の低コスト化を達成することができる。

【0040】また、収容体2を組み立てる工程について説明する。図2に示すように、着脱部材4をX方向に引

き上げれば、側面2b1と側面2b3、側面2b2と側面2b3、側面2b1と側面2b4、側面2b2と側面2b4とを互いに固定して収容体2を展開した状態から容易に組み立て可能である。

【0041】また、組み立てた状態の収容体2を展開する場合には、着脱部材4のすべり金具4aをX'矢印方向(矢印Xと逆方向)に移動すれば、側面2b同士の固定を解除して容易に展開可能であり、ペット用ケース1は、持ち運びや収納時の利便性が高い。

【0042】また、着脱部材としてのファスナ4をX'矢印方向に移動すれば、各側面2b同士の固定を解除できるため、収容体2を完全に組み立てず、一部の側面のみを開放した状態で使用することも可能である。例えば、図8に示すように、スペースの限られた自動車内においても扉30a側の側面2b1のみを開放すればペットを収容体2内に収容する場合や、降車させる場合において、ペットを収容体2の上方から出し入れする必要がなく、開放された扉30側の側面2b1上を通過させてペットを容易に格納可能となるため、利便性が大幅に向上される。また、各側面2bが解放可能であるため、図9に示すように、ペット用ケースを座席10の座部10a上に縦型に配した場合においても、扉30a側の側面2b4を開放すれば、ペットの出し入れが容易に達成される。

【0043】次に、ペット用ケース1を自動車等の車両の座席上に固定する工程について説明する。図4に示すように、座席10上に組み立てた状態の収容体2を側面2b4(後面)が背部10bと当接するように載置する。そして、図5に示すように、シートベルト11を開口部8aに挿通して固定すれば、座席10上にペット用ケース1が密着固定される。さらに、固定部材3のベルト部材3aを座席10の頭部10cに掛け回して、長さを調整して緊張させれば、収容体2を座席10に対して密着させた状態で固定することができる。

【0044】そして、犬や猫等のペットを側面2b3側を頭部にして収容体2内に収容し、連結部材7bをペットの首輪に設けられたリング部材(図示せず)に連結してペットを2本の係留部材7により係留する。

【0045】次に本発明によるペット用ケース用中敷きの実施の形態について、図10乃至図15を参照して説明する。図10は、本発明によるペット用ケースの中敷きを示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図、図11の(a)は、図10に示す中敷きにペットシートを装着した場合の平面図であり、(b)は、図10に示す中敷きにペットシートを装着した場合の底面図である。図12は、本発明によるペット用ケースの中敷きをペット用ケースに使用した例を示す斜視図である。図13は、本発明によるペット用ケースの中敷きに市販のスナップを使用した状態を示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図、図14の(a)は、図10に示す中敷きのスナップの位

置を変更した形態にペットシートを装着した状態を示す平面図、(b)は、図10に示す中敷きのスナップの位置を変更した形態にペットシートを装着した状態を示す底面図、(c)は、図10に示す中敷きのスナップの位置を変更した形態にペットシートを装着した状態を示す底面斜視図であり、ペットシートを一部中敷きから外した状態を示すものである。図15は、図10に示す中敷きから芯部を取り外した場合の斜視図である。

【0046】ペット用ケース1の収容体2の底面2a上には、ペットが座る座面を有し、底面2aの形状に合わせて形成されたマット上の中敷き5が、敷設され、収容体2自体の汚損が防止される。また、中敷き5に、ペットシート6を敷くことによりペット20の居住性を向上させるものである。このペット用ケース用中敷き5について説明する。

【0047】図10に示すように、中敷き5は、ペット20が座るマット状に形成された座面5a1を有し、ボールサイド5b1とソケットサイド5b3とからなるスナップ5bを複数備えている。スナップ5bは、係合突部を構成するボールサイド5b1と係合凹部を構成するソケットサイド5b3からなり、ボールサイド5b1とソケットサイド5b3の間にペットシート6を挟持して固定する。

【0048】ペットシート6は、図11、図12等に示すように、中敷き5の座面5a1とペット20の間に介挿されて使用されるものであって、一般に市販されているものを使用可能である。概して、吸収体部分6aと、吸収体部分6aの周囲に設けられた周辺部分6bとからなるものであって、周辺部分6bは、吸収体部分6aに比して薄肉で構成されており、スナップ5bによって挟持するに適したものである。

【0049】スナップ5bは、中敷き本体5aの端部に配され、図10乃至図15に示す実施例においては、中敷き本体5aの対向する両側端の隅に計4箇所設けられており、後述するように中敷き本体5aの下面5b2に配することが望ましい。複数箇所スナップ5bを設けることによって、確実、かつ、強固にペットシート6を固定するものであり、下面にスナップ5bを配することによって、スナップ5b自体の汚損及びペット20がスナップ5bに接触することを防止してペット20の居住性を向上させるものである。

【0050】また、ソケットサイド5b3（又はボールサイド5b1）は、中敷き本体5aに配されたボールサイド5b1（又はソケットサイド5b3）の近傍にて少なくとも一端を中敷き本体5aに固定された支持部5b2に配されるものである。これによって、中敷き本体5aに配されたボールサイド5b1（又はソケットサイド5b3）に容易にソケットサイド5b3（又はボールサイド5b1）を係合させることが可能である。尚、支持部5b2を設けず、ボールサイド5b1（又はソケット

サイド5b3）を単体で中敷き本体5aに配されたソケットサイド5b3（又はボールサイド5b1）に取り付ける構成も可能である。

【0051】また、中敷き本体5a及び支持部5b2と、スナップ5bは、一般的に圧着加工により、互いに固定されるものであるが、図13に示すように、スナップ5bは、市販されているスナップを使用することも可能であって、スナップ5bのソーイングホールを介して縫製によって中敷き本体5aと前記ボールサイド5b1（又はソケットサイド5b3）、支持部5b2と前記ソケットサイド5b3（又はボールサイド5b1）を固定することも可能である。

【0052】また、図11及び図14に示すように、ペットシートは、中敷き5の座面5a1を被覆して、ペットシート6の端部（特に周辺部分6b）を中敷き5の下面5a2側に折り返して中敷き本体5aの下面5a2側に設けられたスナップ5bにより挟持して固定することが好ましい。前述したように、下面にスナップ5bを配することによって、スナップ5b自体の汚損及びペット20がスナップ5bに接触することを防止してペット20の居住性を向上させるものである。

【0053】尚、図10乃至図13及び図15に示す実施の形態によれば、中敷き本体5aに配した支持部5b2の一端を中敷き本体5aの端部において固定し、スナップ5bが中敷き本体5aの内部を向いている。従って、図11(c)に示すように、スナップ5bに対して、横方向からペットシート6の端部を挟持し、ペットシート6を折り返して座面5a1を被覆するものである。また、図14(b)に示すように、中敷き本体5aに配した支持部5b2の一端を中敷き本体5aの端部近傍において固定し、スナップ5bが中敷き本体5aの外部を向いている構成を採ることも可能である。従って、スナップ5bに対して、縦方向からペットシート6の端部を挟持し、ペットシート6を折り返して座面5a1を被覆するものである。

【0054】また、中敷き本体5aは、織布、不織布、紙材、合成樹脂、合成繊維等の素材を適宜選択して使用することができる。本実施の形態では、中敷き本体5aが綿製の織布から形成され通気性が確保されている。また、特に、ポリエステル、コットン、ウール等のフリースや、フェルト、フランネル等の柔軟性素材を使用することによって、ペット20の居住性を向上させることが可能である。また、中敷き5が、ペット20の糞尿等により、汚損してしまった場合に備えて、中敷き本体5aを中空の包袋状に構成し、内部にフリース素材からなる芯部を収納可能に構成することも可能である。これによって、中空包袋状の中敷きのみを洗浄することを可能とし、中敷き5の洗浄時における利便性の向上を図るものである。

【0055】また、図2(d)及び図12等に示すよう

に、中敷き 5 は、如何なるペット用ケースにも使用可能である。従って、ペットシート 6 の周辺部分 6 b を複数のボールサイド 5 b 1 とソケットサイド 5 b 3 とからなるスナップ 5 b で挟持し、固定することによって、中敷き 5 の座面 5 a 1 を被覆し、中敷き 5 を収容体 2 の底面 2 a 上に敷設することにより、ペット 20 の糞尿等からペット用ケースの汚損を簡単、かつ、確実に防止し得るものである。

【0056】次に本発明によるペットシートの固定機構の実施の形態について、図 16 乃至図 20 を参照して説明する。図 16 は、本発明によるペットシートの固定機構の分解斜視図であり、座面の一部を破断させた図、図 17 (a) は、本発明によるペットシートの固定機構の分解断面図、(b) は、本発明によるペットシートの固定機構の断面図である。図 18 の (a) は、本発明によるペットシートの固定機構の第 2 の実施形態を示す分解断面図であり、(b) は、本発明によるペットシートの固定機構の第 2 の実施形態を示す断面図である。図 19 は、本発明によるペットシートの固定機構の使用形態を示す斜視図、図 20 は、本発明によるペットシートの固定機構の第 3 の使用形態を示す斜視図及び一部拡大断面図である。なお、本発明によるペットシートの固定機構は、ペット用ケース用中敷きの発明におけるペットシート

のスナップによる挟持、固定を普遍化するものであり、同一の構成を採る部分については、同一の符号を使用する。

【0057】本発明によるペットシートの固定機構は、ペットシートを前述の如きペット用ケースや、ペット用ケースを問わず、ペットが座面として使用する空間にペットシートを固定する場合のペットシートの固定機構に係るものであり、スナップ構造によって、ペットシートを挟持、固定するものである。スナップ 12 は、係合突部を構成するボールサイド 12 a と係合凹部を構成するソケットサイド 12 b からなるものであって、座面 14 に配された凸型のボールサイド 12 a (又は座面に設けられた凹型のソケットサイド 12 b) と、ボールサイド 12 a (又はソケットサイド 12 b) に嵌合し得る凹型のソケットサイド 12 b (又は凸型のボールサイド 12 a) からなるスナップ 12 のボールサイド 12 a の凸部 12 a 1 とソケットサイド 12 b の凹部 12 b 1 の間にペットシート 6 (特に、周辺部分 6 a) を挟持して固定するものである。

【0058】ペットシート 6 は、ペット 20 の座面 14 とペット 20 の間に介挿されて使用されるものであって、一般に市販されているものを使用するものである。概して、吸収体部分 6 a と、吸収体部分 6 a の周囲に設けられた周辺部分 6 b とからなるものであって、周辺部分 6 b は、吸収体部分 6 a に比して薄肉で構成されており、スナップ 12 によって挟持するに適したものである。

【0059】また、図 17、図 18 及び図 20 に示すように、ボールサイド 12 a の凸部 12 a 1 は、先端方向に拡開し、ボールサイド 12 a と嵌合可能なソケットサイド 12 b は凹型であり、凹部 12 b 1 の開口側の幅は底面 12 b 2 側の幅よりも漸次小で構成されている。従って、スナップ 12 のボールサイド 12 a とソケットサイド 12 b の係合がより強固、確実となり、ペットシート 6 をより強固、かつ、確実に固定することが可能である。

【0060】また、図 17 に示すように、ボールサイド 12 a 又はソケットサイド 12 b は、ペット用ケース等の座面 14 に一体成形することも可能である。一体成形することによって、コスト性や取り扱いが向上するものである。

【0061】また、ボールサイド 12 a を座面 14 と一体成形することができない場合においては、図 18 に示すように、ボールサイド 12 a を独立した構成とし、粘着性部材 13 で前記座面 14 に固定する構成を採ることも可能である。粘着性部材としては、両面テープにより、簡易にボールサイド 12 a を固定する場合や、マジックテープ (登録商標) により、ボールサイド 12 a を座面 14 に固定し、容易に取り外すことも可能である。

【0062】また、ペットシートの固定機構の使用形態としては、図 19 に示すように、スナップ 12 で固定されたペットシート 6 上にペット 20 が乗るものであるが、ペットシート 6 上に現れるソケットサイド 12 b が、ペット 20 に接触した場合を考慮し、図 20 に示すように、ソケットサイド 12 b の頭部を半球面状にすることによって、ペット 20 が、ソケットサイド 12 b に接触した場合においても怪我をすることを防止することが可能である。

【0063】また、図 16 乃至図 20 においては、座面 14 にボールサイド 12 a が配され、ソケットサイド 12 b が独立して、ボールサイド 12 a に係合する構成が採られているが、その逆に、ソケットサイド 12 b が座面に設けられ、ボールサイド 12 a が独立して、ソケットサイド 12 b に係合する構成を採ることも可能である。従って、本発明によるペットシートの固定機構によって、ペットシートを強固、かつ、確実、容易に座面に対して取り付けることが可能となる。

【0064】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のペット用ケースによれば、不使用時においてコンパクトに収納可能であり、使用時においてはペットの出し入れが容易に達成可能であって、ペット用ケースの利便性の向上が図られるものである。また、本発明のペット用ケース用中敷き並びにペットシートの固定機構によれば、ペットシートを簡単な構造で容易に固定可能であって、ペット用ケース及びペットシートの取り付けの利便性の向上が図られるものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明によるペット用ケースを展開した状態を示す平面図である。

【図 2】(a) 及び (d) は、本発明によるペット用ケースを組み立てる工程を示すものであり、(a) は、正面図、(b) は、平面図、(c) 及び (d) は、斜視図である。

【図 3】(a) 及び (d) は、本発明によるペット用ケースを分解して、折り畳む工程を示すものであり、

(a) 乃至 (c) は、平面図、(d) は、右側面図である。

【図 4】本発明によるペット用ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図であり、枠線内は着脱部材（ファスナ）の部分拡大図及び側面の一部を破断した部分拡大図である。

【図 5】本発明によるペット用ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、枠線内は固定状態を示す部分拡大図である。

【図 6】本発明によるペット用ケース内に、ペットを係留した状態を示す平面図である。

【図 7】本発明によるペット用ケースの使用形態を示す斜視図である。

【図 8】本発明によるペット用ケースにペットを出入りさせる場合の状態を示す斜視図である。

【図 9】本発明によるペット用ケースを縦方向に座席上に固定した状態を示す斜視図である。

【図 10】本発明によるペット用ケースの中敷きを示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図である。

【図 11】(a) は、図 10 に示す中敷きにペットシートを装着した場合の平面図、(b) は、図 10 に示す中敷きにペットシートを装着した場合の底面図である。

【図 12】本発明によるペット用ケースの中敷きをペット用ケースに使用した例を示す斜視図である。

【図 13】本発明によるペット用ケースの中敷きに市販のスナップを使用した状態を示す斜視図、枠線内は部分拡大図である。

【図 14】(a) は、図 10 に示す中敷きのスナップの位置を変更した形態にペットシートを装着した状態を示す平面図、(b) は、図 10 に示す中敷きのスナップの位置を変更した形態にペットシートを装着した状態を示す底面図、(c) は、図 10 に示す中敷きのスナップの位置を変更した形態にペットシートを装着した状態を示す底面斜視図であり、ペットシートを一部中敷きから外した状態を示すものである。

【図 15】図 10 に示す中敷きから芯部を取り外した場合の斜視図である。

【図 16】本発明によるペットシートの固定機構の分解斜視図であり、座面の一部を破断させたものである。

【図 17】(a) は、本発明によるペットシートの固定機構の分解断面図、(b) は、本発明によるペットシ

ツの固定機構の断面図である。

【図 18】(a) は、本発明によるペットシートの固定機構の第 2 の実施形態を示す分解断面図、(b) は、本発明によるペットシートの固定機構の第 2 の実施形態を示す断面図である。

【図 19】本発明によるペットシートの固定機構の使用形態を示す斜視図である。

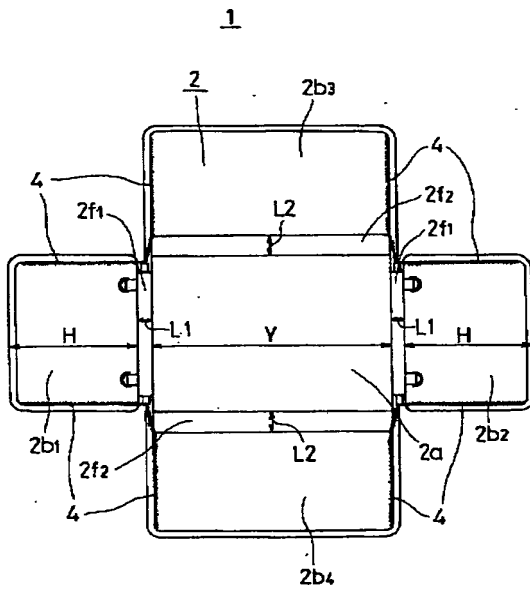
【図 20】本発明によるペットシートの固定機構の第 3 の使用形態を示す斜視図及び一部拡大断面図である。

【符号の説明】

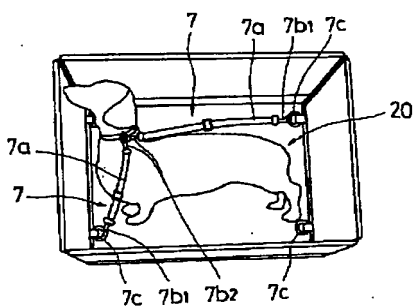
1	ペット用ケース
2	収容体
2 a	底面
2 b	側面
2 b 1	側面
2 b 2	側面
2 b 3	側面
2 b 4	側面
2 f	連結部
20 2 f 1	第 1 連結部
2 f 2	第 2 連結部
2 g	被覆部材
2 h	弾性部材
2 i	基材
3	固定部材
3 a	ベルト部材
3 b	環状部材
3 c	結合部材
4	着脱部材（ファスナ）
30 4 a	すべり金具
5	中敷き
5 a	本体
5 a 1	座面
5 a 2	下面
5 b	スナップ
5 b 1	ボールサイド
5 b 2	支持部
5 b 3	ソケットサイド
5 c	芯部
40 6	ペットシート
6 a	吸収体部分
6 b	周辺部分
7	係留部材
7 a	帯状部材
7 b 1	連結部材
7 b 2	連結部材
7 c	環状部材
8	固定部材
8 a	開口部
50 10	座席

10 a	座部
10 b	背部
10 c	頭部
11	シートベルト
11 a	肩側ベルト
11 b	腰側ベルト
11 c	固定金具
12	スナップ
12 a	ボールサイド

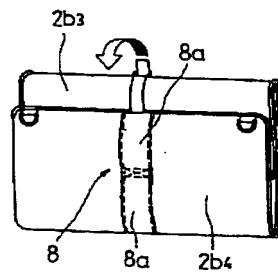
【図 1】



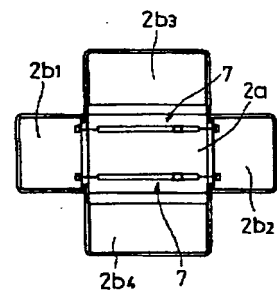
【図 6】



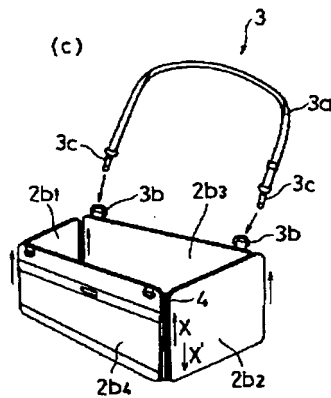
(a)



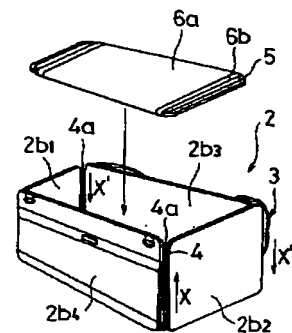
(b)



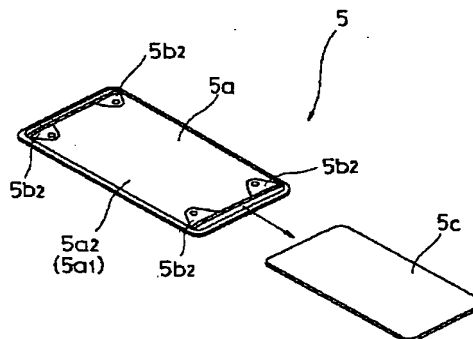
(c)



(d)



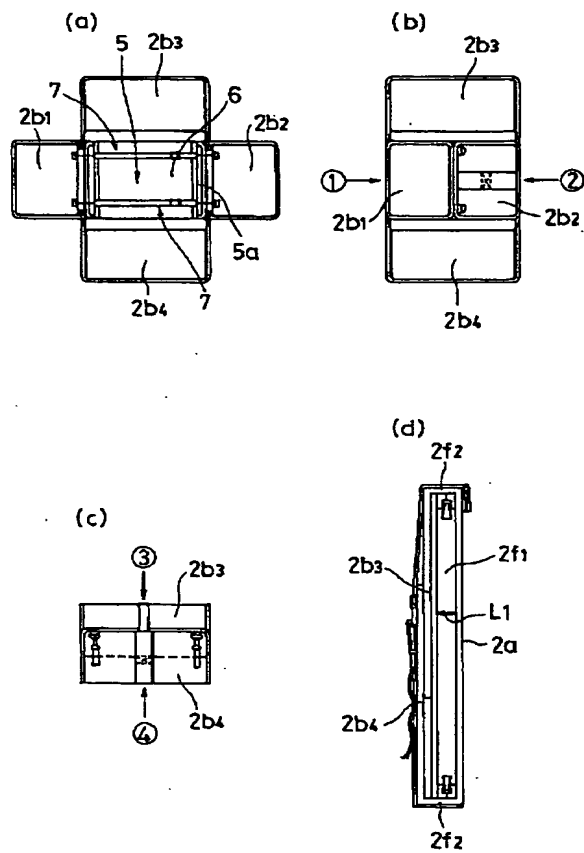
【図 15】



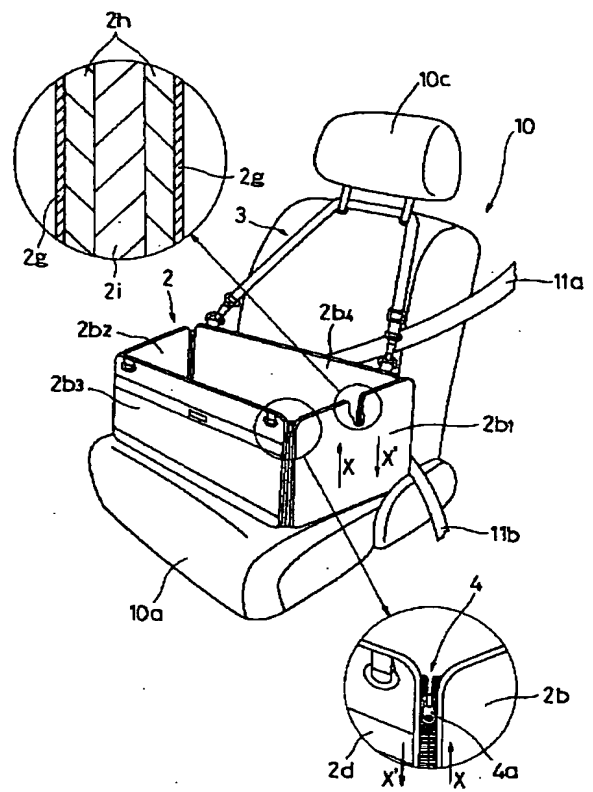
12 a 1	凸部
12 b	ソケットサイド
12 b 1	凹部
12 b 2	底面
13	粘着性部材
14	座面
20	ペット
30	車
30 a	扉

【図 2】

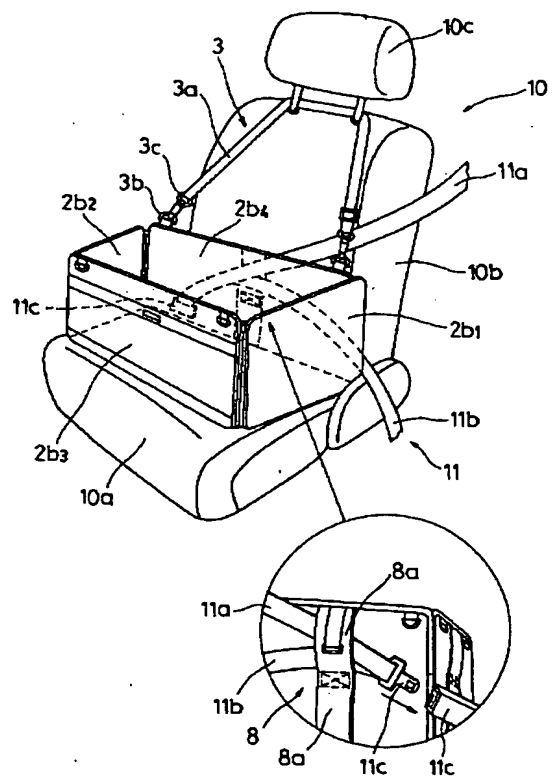
【図 3】



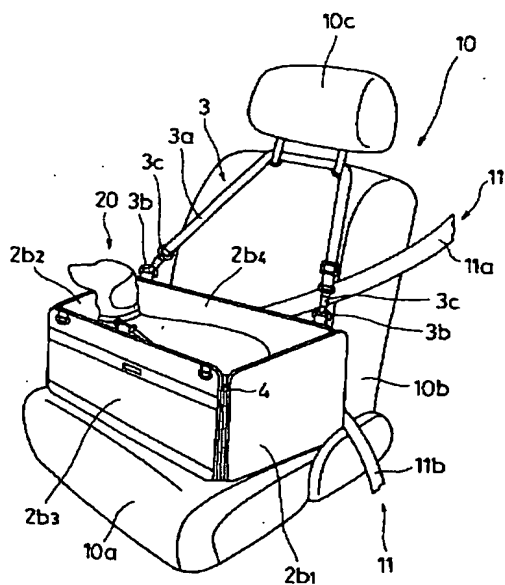
【図 4】



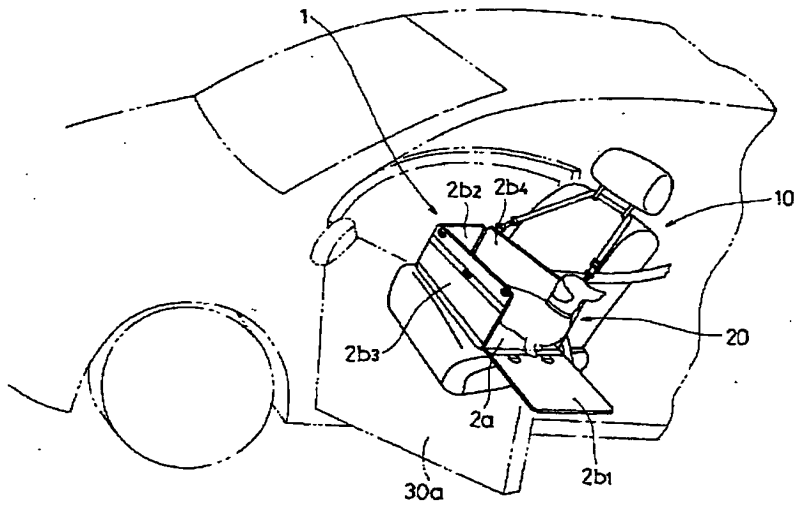
【図 5】



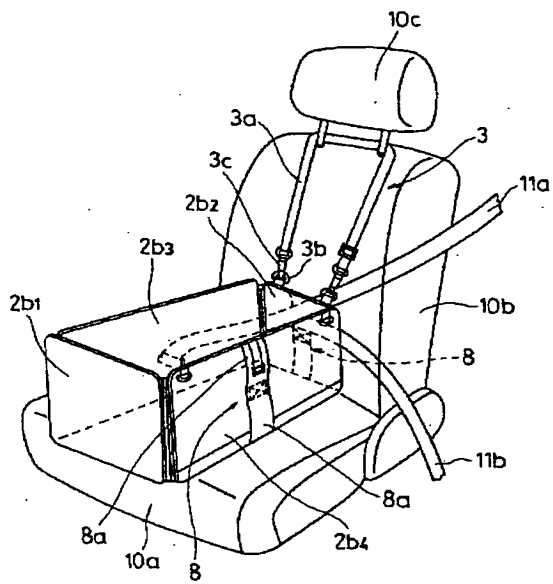
【図 7】



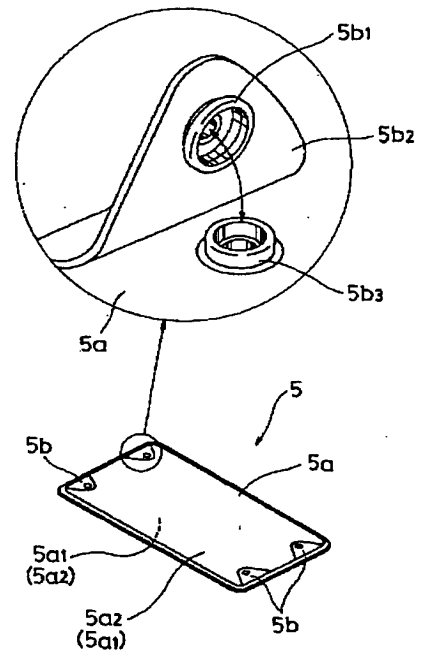
【図 8】



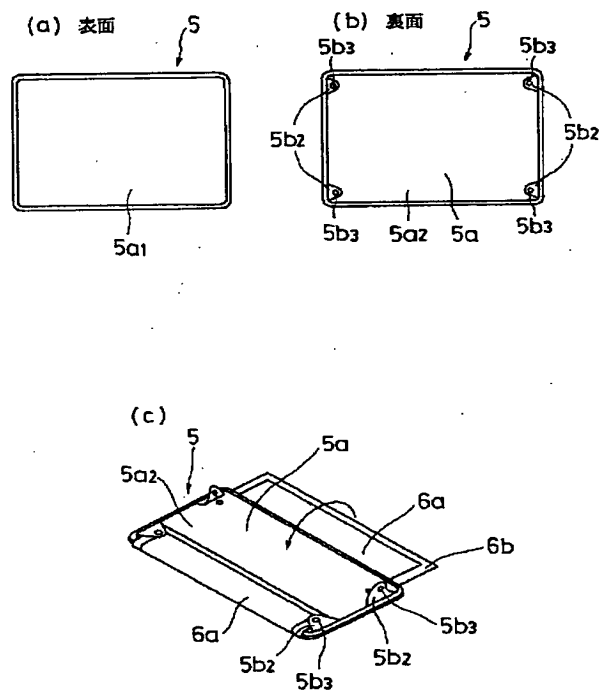
【図 9】



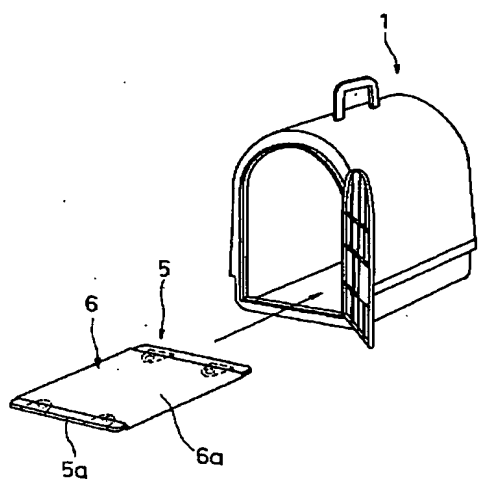
【図 10】



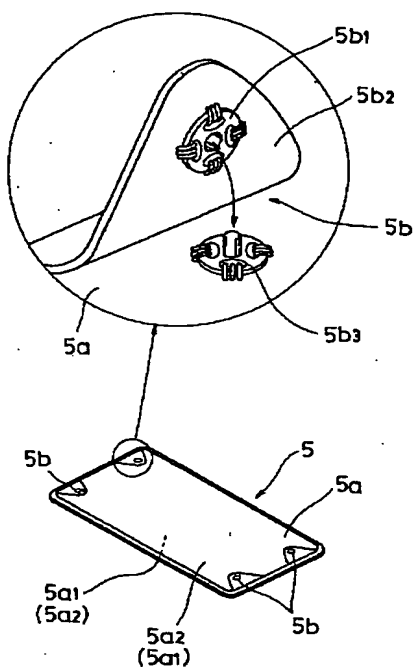
【図 11】



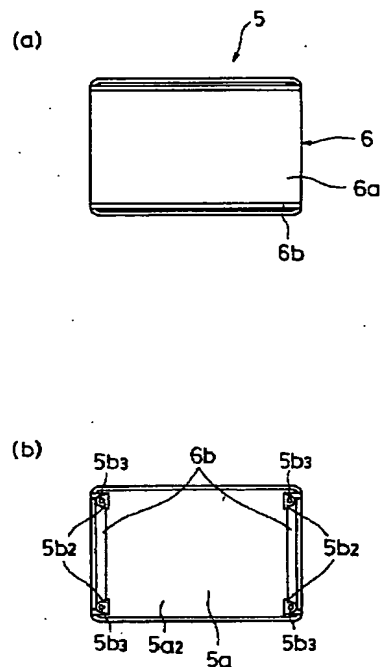
【図 12】



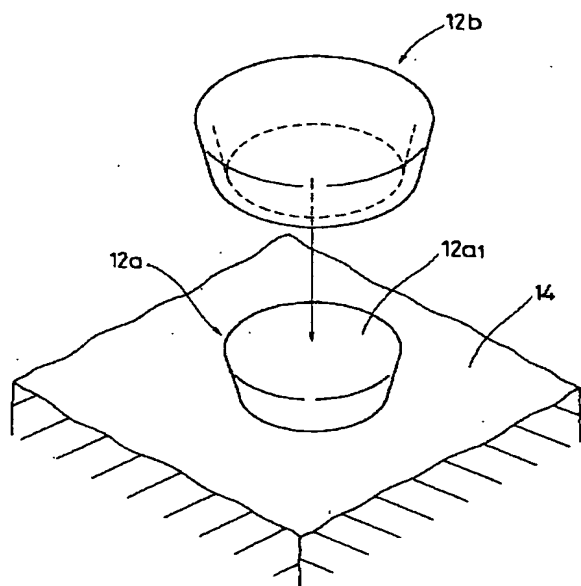
【図 13】



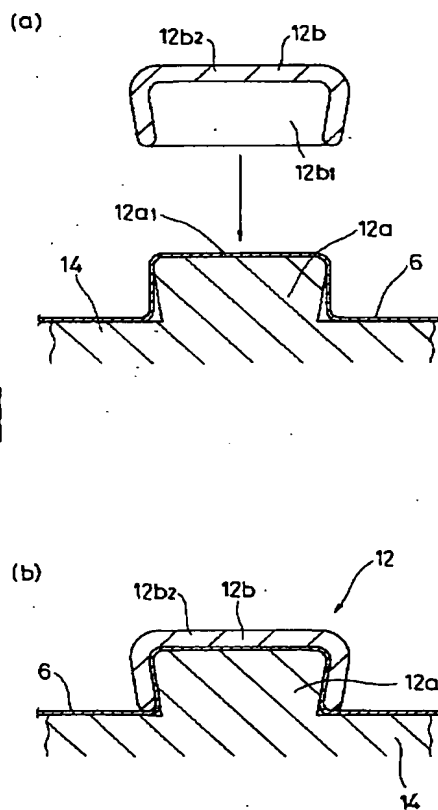
【図 14】



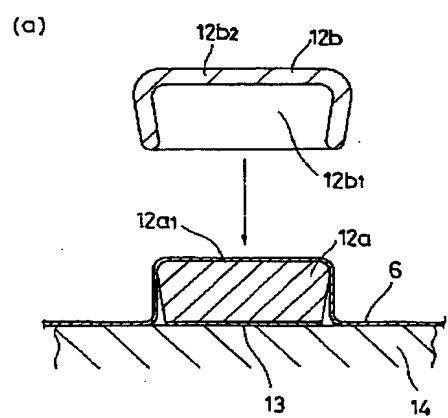
【図 16】



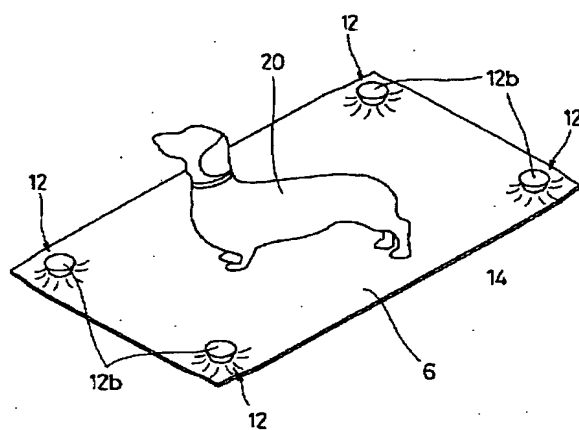
【図 17】



【図 18】



【図 19】



【図 20】

